

# 課題名：ピーマン青年農業者の研究会活動による環境制御技術の波及

所 属 名：大隅地域振興局農政普及課  
発表者名：末川 久

## <活動事例の要旨>

- (1) 環境制御技術の導入により、厳寒期収量（12～3月）が増収した。
- (2) 環境制御技術マニュアルと情報統合基盤を活用することで、技術情報の「見える化」、  
「共有化」による栽培管理の改善が図られた。
- (3) 青年プロジェクト活動を通じて産地を担うリーダーが育成されつつある。
- (4) 青年自らが結成した研究会組織を普及が積極的に支援し、栽培技術の習得・技術開発に取り組み、産地の核となる組織に育成した。
- (5) ピーマン青年技術研究会活動が、鹿屋市吾平町やなんぐう地区の青年にも波及し、研究会組織が結成され、技術開発や情報の交換、交流の輪が大隅地域全体へ広がりがつつある。

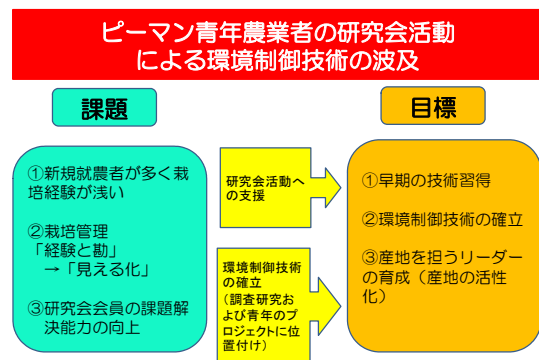
## 1 活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由

- ア ピーマン栽培では、新規就農者の増加により早期の技術習得が求められている。
- イ 長年の「経験と勘」に基づく慣行技術が一般化している中で、モニタリング装置を活用した技術の「見える化」や炭酸ガス施用等の単収向上技術の導入が進みつつあり、技術確立が急務である。
- ウ 産地を担うリーダーを育成し、産地全体へ技術等を波及する必要がある。

### (2) 計画の策定過程

令和元年度の基本計画に環境制御技術による多収・高品質生産の確立を課題として設定し、ピーマン青年技術研究会を対象に、技術の「見える化」や厳寒期の単収向上を目標に取り組んできた。また、環境制御技術の確立は調査研究に位置づけるとともに、青年プロジェクト活動として課題を設定し支援した。



## 2 普及指導活動の内容

図1 課題と目標のフロー図

### (1) 活動の経過

- ア ピーマン青年技術研究会（東串良町ピーマン環境制御研究会）への活動支援
- 平成28年12月 東串良町の青年農業者6名で「ピーマン青年勉強会」が発足
- 平成30年4月 「ピーマン青年勉強会」が会員数の拡大とともに「ピーマン青年技術研究会」に発展し、栽培技術に特化して活動
- 令和元年 「ピーマン青年技術研究会」から東串良町の青年を中心に環境制御技術の開発に特化した「東串良町ピーマン環境制御研究会」が発足
- 令和元～2年 ハウス内環境のモニタリング、環境制御技術実証活動  
青年プロジェクト活動の課題を環境制御技術に設定し取組支援
- 令和3年 情報統合基盤を活用開始
- 注）情報統合基盤：生育診断、ハウス内環境、出荷データをクラウド上で管理

#### イ 環境制御技術の確立（調査研究）

ピーマン環境制御マニュアル作成の基礎となるデータ収集と検証

#### (2) 指導・支援の体制

ピーマン青年技術研究会を重点支援対象とし、普及指導計画に位置づけた。スマート農業実証事業を活用し、環境制御に特化した東串良町ピーマン環境制御研究会と関係機関、メーカーと連携して実証活動による技術の確立を図った。また、情報統合基盤の活用においては、普及が中心となり、生育診断に基づくバランスシートの作成及び解析を行い、栽培管理の改善・提案等の助言指導を行った。

### 3 普及指導活動の成果

#### (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

ア ピーマン青年農業者に対して情報提供を行い、基本技術の習得が図られた。環境制御技術（ハウスモニタリング、炭酸ガス施用）の導入実証によって、厳寒期収量（12～3月）が概ね1割増収した。また、これらの実証活動をプロジェクトとして取り組んだ2名が青年農業士を取得するとともに、厳寒期の単収向上技術を盛り込んだ「環境制御技術導入マニュアル」の基礎データの収集に大きく貢献した。

イ 環境制御技術マニュアルと情報統合基盤を活用することで、技術情報の「見える化」、「共有化」が図られ、栽培管理の改善が図られた。

ウ ピーマン青年農業者の研究会組織の活動を関係機関が支援することにより、産地の核となる担い手育成に繋がった。

#### (2) 活動に対する生産者・農家の評価

環境制御に関する新たな研究会組織も生まれ、研究会組織間の情報交換も活発に行われており、環境制御技術の導入に前向きな農家は意欲を持って取り組もうとしている。

#### (3) 地域農業振興への貢献

東串良町園芸振興会の東串良町の青年農業者を中心とした「東串良町ピーマン環境制御研究会」の活動に刺激を受け、令和2年に同振興会の鹿屋市吾平町の青年農業者が「鹿屋市吾平町ピーマン環境制御研究会」を結成し、連携して実証活動を行う中で、振興会内の横のつながりが深まった。さらに、令和3年に東串良町園芸振興会の2つの研究会組織の活動に刺激を受けた、なんぐう地区（錦江町、南大隅町）の青年農業者が、研究会組織「なんぐう地区ピーマン青年研究会（わけもんの会）」を結成し、実証活動を開始するなど、技術開発や情報の交換、交流の輪が大隅地域全体へ広がりつつある。

### 4 今後の普及活動に向けて

#### (1) 今後の課題

ア 大隅地域の研究会活動を核としたピーマン産地の活性化

イ 環境制御技術マニュアル及び情報統合基盤を活用した環境制御技術の波及

#### (2) 今後の活用に向けて

研究会活動を支援し環境制御技術の改善（効果的な炭酸ガス施用や日射比例灌水技術）を図り、更なる単収向上技術の確立と普及拡大を図る。研究会活動を通して青年農業者を大隅地域のピーマン産地を牽引する地域リーダーとして育成し、ピーマン産地の更なる発展を目指す。